

令和5年 宣伝使研修会 のご案内

三河本苑では令和5年度教団方針に沿って、令和5年度「宣伝使研修会」を開催し、み教えを宣べ伝える聖なる使命を担う宣伝使の養生を図りたく実施したいと思います。

【とき】9月24日(日) 10時受付

【場所】三河本苑

【目的】令和5年度教団方針「私たちの6つの誓い」の中の一つ「救いを求める人の心に寄り添いご祈願、み手代お取り次ぎ(宣伝使)につとめます」が掲げられています。教主さまは多くの人々が混乱し不安を抱いている現代こそ大本のみ教えをもっと堂々と胸を張って宣べ伝えるべき時、とお示しなされました。三河本苑としては、宣伝使をはじめ、宣伝使候補者をサポートし養成する取り組みを推し進め、宣伝使の使命を覚悟し、大切なご用とされる「ご祈願」「み手代お取り次ぎ」について、実習を通してその意義と活用方法を学びます。

【プログラム】

時間	内容	担当
10:20	開講式(神前礼拝)	
	講話「宣伝使の心得」	特派宣伝使
12:00	昼食	
13:00	お話「宣伝使の使命」 実習「ご祈願」「み手代お取次ぎ」	特任宣伝使
14:15	実例話・質問・協議	特派宣伝使
15:00	閉講式「神前礼拝」	
15:10	片付け清掃	

【対象】・正宣伝使・准宣伝使
・宣伝使試補

・信徒(宣伝使試補候補者)

【講師】・特派宣伝使・特任宣伝使

【持ち物】令和5年度教団方針

宣伝使の方は「み手代」

「宣伝使の心得」

【参加費】無料

昼食代500円

三河本苑だより

8月号

2023・8 No.495

(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町28-5

TEL 0533-69-7518

FAX 0533-69-1455

令和5年秋季大祭奉納冠沓句の募集

【冠句題】

・あざやかな

・しっかりと

・本苑に(本苑は)

【沓句題】 ・道の友

【〆切】9月17日(日)

(本苑9月月次祭)

※1人5句まで 芸術部

六月月次祭あいさつ
「5つの重点活動」の
「和合の梅の花」を
大きく咲かせましょう

三河本苑本苑長
加藤三樹

今年9月17日亀岡で開催されます大本エスペラント歌祭へ、三河本苑より19名もの方が献詠歌を投稿して下さいました。ありがとうございます。その中でエスペラントにて投稿された方が、何と2名見えました。あとの17名は本部でエスペラントにしております。自分の詠んだ歌がどのようなエスペラントになったか、当日、楽しみにしててください。

このエスペラント活動を始め、三河本苑は本年度、「5つの重点活動」に取り組んでいます。先月の5月みろく大祭の教主さまごあいさつに、次の2つのお言葉がありました。

8月の行事

●8日(火)～9日(水)

東海教区特任宣伝使

研修会

(亀岡)

●20日(日)

本苑8月月次祭

・全体会議

●26日(土)～27日(日)

本部講師葬祭研修会

9月の行事

●17日(日)

本苑9月月次祭

敬老会

●24日(日)

宣伝使研修会

八月添釜

納涼茶会

残暑厳しい中にも、秋の気配を感じながら一服をお召し上がりください。

芸術部/直心会第三テラック

た。「過去の常識や体験、知識、昔日の栄光に捕らわれることなく、新しいことにチャレンジしていつてください」と。また「和合の花をいっぱい咲かせるご用ができますように、心から願っています」と。

「マイ祝詞」「マイ箸」「マイボトル」「マイタオル」持参でお願いします

私の思い

碧海支部 金原 千江子

「母との思い出」

私の母が昇天して8年になります。

母は12歳の時に、実母を病で亡くし幼い兄弟5人を育てあげました。父は18歳の時に、大本信者の川井喜多郎宣伝使に誘われ修行に行き大神様を受けて来た人です。

そんな母は最初の私を産んで産後のお風呂が早かった為、大出血をおこし生死の中、天井より自分の寝ている姿を見ていました。傍で父が天津祝詞を上げていたり、近所の人泣いていたりしていました。その時、本当に泣いているとウソ泣きの人があったそうです。暫くしてお花畑に亡き妹がいて、その先に大きな門があり門番が立っていました。すると門番が来るな！の一声で、母は病院のベットで目が覚めました。寒さのあまり妹に体をさすって貰っていました。

初めて亀岡に行った時、額に飾られていた大本事件の建物の門と臨死体験で見た門が同じだったと聞きました。母は家族や孫に見守られ、1日で昇天しました。80歳でしたが乙女のような安らかな顔でした。生前私の人生は子育てだったと言っておりました。私は一度も両親に叱られたことがなく育てて貰い感謝しかありません。

又、信仰の友に恵まれ、20歳の頃より高橋千晴先生のお陰で祭典葬儀の伶人に連れて行って貰い感謝しかありません。今は孫に気にかけて貰い娘に助けられ、またご近所の高木敏彦夫妻には聖地参拝やレクレーションでお世話になっております。勿論ですが、支部の皆様と助け合っ月次祭を執行できるのも有難く思っております。

いつも守られて生活でき、日出磨先生の神恩洪大を感じさせていただいております。

この世の夫婦はけっして偶然に結ばれるものではない。霊界の深い因縁に基づいています。天国で生まれた子どもは少なくとも一度は地上に降りて修行をしなければならぬという、これは天界の規則になっているのです。現界では良いことはありません。ただ祖霊を祭り大本の教えに従い信仰していれば有難いこともあります。人間がこの世に生れてくる目的は現界において善徳を積み、この世に生まれた以上修行の場として少しでもミタマが向上するよう努力するのが現界です。現界はいわゆる天人の養成所で、私たちは勉強させてもらっているのです。亡くなられたら無になると説く宗派もあるようですが、大本の死生観では魂は永遠に生き通して、何回も生まれ変わり死に変わりしながら、成長していくのです。もしも人生一度で終わりとなったら、好きなことだけやっただ方が得だということになりますよね？他人はどうなろうと関係ない。悪いこととしてでもお金儲けて、死んだらそれで終わりではダメで、やはりその人の徳が、ご先祖や子孫に伝わっていきます。

信仰覚書 (第二巻 P142) 「われ」というものは、生まれた時からズツと同じものであるかの如く思いがちであるが、「われ」は決して一定不変のものではない。変わらぬのは、ただその「われ」なる抽象連続的の名のみであって、その内容は一瞬一瞬に変動してい

るものである。ただその前後に関係統一的である。真の「われ」は今の「われ」であって、その前後のものは、ただその前行者、もしくは後行者にすぎぬ。この意味において、人は今のベーストにいけるべきであって、

真の幸福はここに存すと思ふ。すなわち、瞬間々々のわれの全的活動よりほかに真の幸福は存するものでない。かくて、瞬間々々に「われ」の内容は豊富になつてゆき、時とともに完璧に近づき、その全的活動が複雑精細となりゆくのである。これが人生発達の順序である。

本年度の教団方針 人類愛善会活動方針を中心に、その周りに5枚の梅の花弁、「5つの重点活動」の「和合の梅の花を大きく咲かせるご用」にチャレンジしています。引き続き、活動にご協力をよろしくお願いいたします。

天人の養成所

特任宣伝使 三矢 直

聖師様ははつきりおっしゃっています「そもそも高天原の天国に住む天人すなわち人間の昇天せし靈身人は地上と同様に夫婦情交を行ないついに靈の子を産んでこれを地上にある肉体人の息に交えて人間を産ましめるものである。ゆえに人は神の子、神の宮というのである。地上天国の写し世であるから天国において天人夫婦が情交を行い靈子を地上に蒔き落とす時はその因縁の深き地上の男女はたちまち靈に感じて情交を為し、胎児を宿すことになる。その胎児はすなわち天人の蒔いた靈の子の宿ったものである」

連載 大本之ぼれ話